歴史と美が息づく記念館へ

国の重要指定文化財

奈良女子大学 記念館 一般公開

5.1（金）～5.7（木）

9：00～16：30

入場無料・予約不要

明治時代の教材標本や貴重な旧蔵書、衣服教育資料、剥製・骨格標本、連携成果を紹介するポスターなど、全4学部による特別展示を行います。なお、今回は改修工事完了後、初めての一般公開となります。

文学部

教材標本・教育掛図・旧蔵書

戦前の教材標本や教育掛図、田村元学長旧蔵書を中心とする資料を紹介。

理学部

剥製・骨格・液浸標本／研究紹介

保存されてきた標本に加え、最近の研究に関するポスター等を展示。

生活環境学部

衣服教育資料・ミシン・食器類など

被服・生活に関わる教育資料や道具を通して学部の歩みをたどります。

工学部

連携成果ポスター展示

企業などとの連携成果を紹介するポスターを展示します。

Information

奈良女子大学の学生たちによるミニコンサートも開催

5/1（金）～5/7（木）

全日　12：20～12：50

※演奏日程の最新情報は記念館HPをご確認ください。

奈良女子大学　総務課　広報・基金係

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL：　0742-20-3220　MAIL：somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

記念館ホームページ ▶

奈良女子大学 記念館

奈良女子大学記念館について

奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は、1908（明治41）年3月に設置され、翌1909（明治42）年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908（明治41）年2月に始まり、1909（明治42）年10月には主要な建物が完成しました。
現在、奈良女子大学記念館となっている建物は、このとき奈良女子高等師範学校本館として建設されたものです。設計は、京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が手がけました。
記念館は木造2階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっていること、また屋根に頂塔やドーマー窓が設けられていることにあります。1階は中央に廊下が配され、それを挟む形で7室が設置されています。建物両端の階段から2階へ上がると、フロア全体が大きな講堂となっており、内部には柱を用いず、中央部に二重に織り上げた天井や明かり取りの窓が配されるなど、開放的で格調高い空間が広がっています。
1994（平成6）年には改修工事が行われ、同年12月27日には正門および守衛室とともに重要文化財に指定されました。その後も修理や設備更新を重ね、2014（平成26）年12月から2015（平成27）年12月にかけては大規模な耐震補強工事も実施されました。さらに、外壁の劣化や瓦の破損、雨漏り、空調設備の老朽化などに対応するため、2025（令和7）年8月から改修工事が進められ、2026（令和8）年3月に完了しました。
旧本館は建設以来、大きな改変をほとんど受けることなく今日に至っています。現在も2階講堂には、奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子が並び、開校時に購入された最も古い国産ピアノのひとつとされる「百年ピアノ」が置かれており、往時の面影を今に伝えています。

展示内容

文学部・理学部・生活環境学部・工学部

各学部に受け継がれてきた資料や標本、研究・連携成果を紹介します。

■文学部

文学部では、「戦前の島津製作所作成の教材標本」と、「田村元学長旧蔵書を中心とする欧米言語文化研究資料」を展示します。昨年本学に寄贈された田村元学長旧蔵書の一部や、欧米言語文化研究に関わる作品・研究書を紹介し、文学・言語文化研究の広がりと魅力をお伝えします。

■理学部

理学部では、剥製標本、骨格標本、液浸標本を展示します。あわせて、最近の研究に関するポスター展示も行います。理学部に受け継がれてきた標本と、現在の研究の広がりを感じていただけます。

■生活環境学部

生活環境学部では、衣服等の教育標本類と関連資料、ミシン、コネクションマシン基盤に加え、古い食器類を展示します。これらは、本学における家政学・生活環境学の歩みを伝えるとともに、被服分野だけでなく食物栄養分野にも広がる学びの射程を感じていただける展示です。

■工学部

工学部では、企業などとの連携成果にかかるポスターを展示します。
学内での教育・研究の成果に加え、社会とのつながりの中で進められている取組を紹介し、工学部の特色と現在の活動を分かりやすくお伝えします。